

みちしるべ

日本福音ルーテル教会
九州教区女性会

発行代表者 岩切 旻世

編集者 財津 悠子

印刷所 ヤマダスピード製版

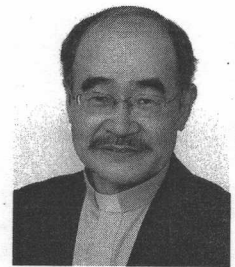
主題聖句

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」ローマの信徒への手紙 12章15節

一年が終わりますね。今年は、酷暑の夏の後、急な秋の冷え込み、体調はどうでしょうか？

身体は加齢とともに正直に衰えますが、ルーテル教会の女性会の「霊力」はすごいものがあります。唐津に赴任して、特に教えられたことの一つはそのことです。祈りのとても良い信者がおられて、随分支えられました。ここに来て「み言の分かち合い」という独自の聖書研究会を続けて、9年になります。もう300回ほどですが、多少の出入りはありますがほぼ同じメンバーで、平均7〜8人です。アブラハム物語から始めて、ペテロの生涯、ルカ伝、今はローマ書をしています。

内容は、デボーション(つまり



恵みの高齢化

唐津・小城教会牧師

箱田 清美

自分での聖句との対話、黙想)とその分かち合いという聖書研究です。時にわたしが神学的導きを話すこともありませんが、まずその方がその日の箇所とどう向き合ったかに、お互いに参加者で耳を傾けます。そして、最後に祈り会。古くからの信者の多い唐津教会ですが、中には、福音書にも目を通したこともない方、どう祈ったらよいか迷われる方、讃美歌も好きなものさえ分からないなど多様で、その中に祈りのとても良い方もおられました。わたしが講義するような聖書研究会をしなかったのは、この多様性の故でした。

300回も重ねると、霊的な力が付いてきたのでしょうか。祈りが

随分よくなり、好きな聖句、讃美歌など1、2ヶ所すぐに出るようになりました。参加者は女性会の方々ばかりですが、わたしが赴任当時すでに相当の年齢でしたので(失礼)、そのまま10年加齢しておられることになります。中には召天された方も3名。教会の高齢化、女性会の高齢化が言われますが、加齢が問題ではなく、長年教会に属していても霊力が身に付かないまま加齢してしまうのが課題なのではないでしょうか。わたしたち牧師の責任は、その点でも重いと思います。

